

医師会 健康講座

医者がすすめても飲んではいけない

い薬？ 市立宇和島病院(御殿町) 大木元明義



患者さんの不安を煽る記事が毎週のように週刊誌に大きく掲載されています。外来で「私が飲んで

いる薬が飲んではいけない薬として書かれていました」と心配される患者さんがたくさんいらっしゃいます。循環器内科で処方するほとんどの薬（高血圧治療薬、高コレステロール治療薬、抗血小板薬、抗凝固薬など）が飲んではいけない薬として掲載されています。今回はこの件について私見を述べさせていただきます。

まず、命に直結する薬についてです。狭心症や心筋梗塞の治療のために冠動脈にステントを留置している患者さんは、決して自己判断で抗血小板薬を止めてはいけません。これらの薬を中止するとステントが血栓で閉塞し、心筋梗塞を発生する危険があります。また、心房細動で抗凝固薬を内服されている患者さんも、内服を中止すると脳梗塞を発生することがあります。これらの薬は出血性合併症が皆無ではありませんが、その有益

性の方がはるかに高いことが世界的に証明されています。

「血圧やコレステロールの薬は飲み始めると止められないのじゃない？」とよく質問されます。これらの薬にはタバコ・覚せい剤のような依存性はありませんので、いつでも止められます。ただし、内服している目的を考えると継続する必要があります。高血圧などを放置すると数年後に脳梗塞・心筋梗塞を発生する危険性が高いことがわかっています。これを薬で適切に管理すると発症が明らかに抑えられます。血圧は年齢とともに上がります。降圧薬は一時的に血圧を下げるだけで根治薬ではありません。薬の効果は約1日ですから、毎日飲まないとお正血圧を維持できません。高血圧の患者さんはほぼ無症状（高血圧は静かな殺し屋）ですので、内服の目的は現在の症状の緩和ではなく、将来の脳梗塞・心筋梗塞予防です。今止めると将来の大きな合併症を防ぐことができます。

「コレステロールが低いと長生きできないと書いてありました」という質問もよくあります。がん患者さんはコレステロール値が低くなる人が多いので、コレステロールが低い人の中には長生きできない人がいらっしゃいます。重要なことは、薬でコレステロールを下

げている人と、自然にコレステロールが低い人を分けて考えることです。薬でコレステロールを下げることは血管の動脈硬化（プラーク）を退縮させ、脳梗塞・心筋梗塞を予防できます。高コレステロール治療薬の発がん性については以前から懸念されていますので、世界中で研究されています。日本人の3割はがんで亡くなるので、内服していた患者さんががんで亡くなられることもあります。薬の副作用ではないことが世界的にも証明されています。

どんなによく効く薬であっても、患者さんが薬に対して不安がある場合は、効果は限られると思います。薬ですので副作用は皆無では

ありません。卵や魚にもアレルギーが出る人がいるように、薬にもアレルギーが出る人がいます。お酒に弱い人がいるように、同じ量の薬でも効きすぎる人がいるのも事実です。その際には自己判断で薬を止めるのではなく、ご自身が納得できるまで主治医や薬剤師と相談し、適剤適量を調整し内服を継続することが重要です。人の命には限りがあり不老不死の薬はありませんが、生活習慣病治療薬は健康長寿の薬だと思っています。

世界保健機関（WHO）が人類の健康に対する最大級の脅威と位置付けている「タバコ」の有害性についてはほとんど掲載せず、タバコ販売促進のために全面カラー広告を掲載している週刊誌を信用できますか？

週刊誌報道が原因の不幸な事故が起こらないことを切に願っています。